

【教員氏名】

内山 令和
研究室:聖アンデレ館 8 階 821 号室
メールアドレス:uchiyama@andrew.ac.jp

【授業形態】

講義

【講義・演習概要】

本講義では、東アジア(特にアジア NIES)を対象とする。「東アジアの奇跡」と賞賛された 1970 年代以降の経済発展を光と影の両面から分析する。東アジア経済の全体像を抑えたうえで、韓国、台湾、中国の各国経済の発展過程、経済の現状と課題、日本との経済関係について解説する。講義は坂田幹男・内山令和著(2016)『アジア経済の変貌とグローバル化』晃洋書房に沿って進める。ASEAN(東南アジア諸国連合)については、秋学期の「アジア経済論Ⅱ」で主に扱う。

【学習目標】

東アジアの経済問題や周辺情勢に関心を持つこと。アジア NIES が奇跡と呼ばれる経済発展を遂げた諸要因、その歴史的背景について理解すること。A.O.ハーシュマンの不均衡成長論など開発理論の考え方を知ること。

【講義計画】

- 第 1 回: ガイダンス: 講義の進め方と重点、アジア経済を分析する視点
第 2 回: 序章: アジア経済の基礎知識
第 3 回: 第 1 章: 東アジアの成長をどう捉えるか(1) アジア的停滞から東アジアの奇跡へ
第 4 回: 第 1 章: 東アジアの成長をどう捉えるか(2) 雁行形態の出現
第 5 回: 第 1 章: 東アジアの成長をどう捉えるか(3) 東アジアの成長過程と局地経済圏
第 6 回: 第 1 章: 東アジアの成長をどう捉えるか(4) 東アジアの成長と日本の役割
第 7 回: 第 2 章: 東アジア経済発展の光と影(1) 東アジアの奇跡と開発主義体制
第 8 回: 第 2 章: 東アジア経済発展の光と影(2) 東アジアの奇跡とアジア通貨危機
第 9 回: 第 2 章: 東アジア経済発展の光と影(3) 構造改革とグローバル化
第 10 回: 第 3 章: アジア NIES の経済発展(1) NIES の発展要因
第 11 回: 第 3 章: アジア NIES の経済発展(2) 韓国の経済発展
第 12 回: 第 3 章: アジア NIES の経済発展(2) 台湾の経済発展
第 13 回: 第 4 章: 中国の経済発展(1) 改革・開放政策の始まり
第 14 回: 第 4 章: 中国の経済発展(2) 市場経済化の新しい局面
第 15 回: 総括

【成績評価の方法】

試験評価: 80% レポート: 0% 出席: 20%
成績評価は期末試験を重視する。基本的に出席はとらない。場合によっては、中間試験を行う。

【使用テキスト】

坂田幹男・内山令和『アジア経済の変貌とグローバル化』晃洋書房

【参考文献】

日本の外務省や経済産業省、JICA(国際協力機構)、JETRO(日本貿易振興機構)、JBIC(国際協力銀行)、IMF(国際通貨基金)、日本アセアンセンター、現地政府の報告書等。

【準備学習の指示(事前学習 30 時間、事後学習 30 時間)】

東アジアに関するニュースを新聞、雑誌、書籍、インターネット等を利用し、随時フォローしておくこと。

【その他備考(担当教員用)】**【備考(管理者用)】**

(旧: アジア経済論)02~10 生読替